東京都子供読書活動推進資料 2009

ほん・本・ごほん 2

東京都立多摩図書館

もくじ

〈こんなひと、してる？〉

ともだち …… 3
きょうだい …… 5
おとうさん …… 7
まじょ …… 9
おいしゃさん …… 11
ごきげんなおんなのこ … 13
ちいさいひと …… 15
なまけもの …… 17
どろぼう …… 19
めいたんてい …… 21
おうさま …… 23
おひめさま …… 25

〈うれしいな、たのしいな〉

ごちそう …… 27
てがみ …… 29
としょかん …… 31
なぞなぞ …… 33
ガーデニング …… 35
おくりもの …… 37
ゆかいななつやすみ … 39
おんがく …… 41
ゆ　き …… 43
おもちゃ …… 45
おかし …… 47
本 …… 49

そのほかの本 …… 51
さくいん …… 56
先生方や子供の読書に関わる方へ …… 58

はじめに

あなたは、どんな本がすきですか？
どんな本をよみたいですか？
友だちの本？　まじょの本？　ごちそうの本？
それともなぞなぞの本？
この小さな本には、テーマごとに、本が６さつずつ、しょうかいされています。
あなたがよみたいテーマがあったら、そこからおもしろいほんをさがしてみてください。

テーマはぜんぶで 24 あります。

🌱 印は、おおよそのめやすです。
🌱 は、小学生ならだれでもたのしめます。
🌱🌱 は、３年生くらいからたのしめます。
🌱🌱🌸 は、５年生くらいからたのしめます。

ちしきのほん は、物語ではなく、実際にあったことをもとにして書いてある本です。

よみたいと思った本が、学校にないときには、近くの公共図書館でかりてください。

どうぞ、この小さな本をみちあんないに、おもしろい本、楽しい本とであってください。

※「ほん・本・ごほん１」でもおなじようにテーマごとに本をしょうかいしています。

とりつたまとしょかん

こんなひと、しってる？

ともだち

1　くまのコールテンくん

ドン・フリーマン 作　まつおかきょうこ 訳
偕成社　978-4-03-202190-5

コールテンくんはおもちゃのクマ。デパートのおもちゃうりばで、だれか自分をうちへつれていってくれないかなあと思っていました。あるあさ、ひとりの女の子がコールテンくんを見て「あたし、ずっとまえからこんなクマがほしかったの」といいました。

2　ふたりはともだち

アーノルド・ローベル 作　三木卓 訳　文化出版局
978-4-579-40247-2

ある日、がまくんはかえるくんに「ぼく、おてがみ、もらったことない」とかなしそうにいいました。そこでかえるくんは大いそぎで家にかえると、がまくんにてがみをかきました。そしてしりあいのカタツムリに、がまくんのいえにてがみをとどけてくれるようにたのみました。

3　こぎつねコンとこだぬきポン

松野正子 文　二俣英五郎 画　童心社
978-4-494-01202-2

子ギツネのコンと、子ダヌキのポンが友だちになりました。ある日、コンがポンに、ポンがコンにばけてあそんでいると、おかあさんがやってきました。もとのすがたにもどるじかんはありません。ふたりは、あいてにばけたままで、おたがいの家に行くことになります。

4　黒ネコジェニーの おはなし　1

エスター・アベリル 作・絵　松岡享子、張替恵子 共訳
福音館書店

小さな黒ネコのジェニーはキャット・クラブに入りたいと思いました。クラブでは会員のネコたちがおどったり、歌ったり、たのしそう。でもジェニーは、何もできません。何もできなくては、クラブに入れません。そこで、ジェニーはスケートをやろうとけっしんします。

5　やかまし村の子どもたち

リンドグレーン 作　大塚勇三 訳　岩波書店
978-4-00-115064-3

わたしの名前はリーサ。もうすぐ８さいになります。わたしの住んでいるやかまし村には家が３げんあります。３げんの家にはこどもが６人います。みんなで木の上にひみつの小屋を作ったり、かぶぬきのお手伝いをしたり。ときどきけんかもするけれど、とてもなかよしです。

ともだち

ちしきのほん

6　すみれとあり

矢間芳子 作　福音館書店
978-4-8340-1817-2

スミレのたねがはじけて、とびちりました。アリが見つけて、はこんでいます。たねについた白いかたまりがアリのごちそうです。とおくまで、はこばれたたねは、やがてあっちこっちで、めを出しました。アリはごちそうをもらって、スミレをふやすてつだいをしているのです。

きょうだい

7　あさえと ちいさいいもうと

筒井頼子 作　林明子 絵　福音館書店
978-4-8340-0874-6

おかあさんは、あさえにいもうとのあやちゃんのせわをたのんで、出かけました。ふたりで家のまえであそんでいるうちに、ふと気がつくと、あやちゃんがいません。キキー！　大どおりからブレーキの音がしました。あやちゃんだったらどうしよう。あさえはぱっとかけだします。

8　にいさんといもうと

シャーロット・ゾロトウ 文　メアリ・チャルマーズ 絵
矢川澄子 訳　岩波書店

あるところに、にいさんといもうとがいました。にいさんはいもうとをからかってばかりいました。ベッドの中にビョウを入れたとか、おまえのキャンデーもらったとか。そのたびに、いもうとはなきだしました。でも、ほんとうはにいさんは、そんなことぜんぜんしていなかったのです。

9　ビーザスと いたずらラモーナ

ベバリイ・クリアリー 作　ルイス・ダーリング 絵
松岡享子 訳　学習研究社　978-4-05-202664-5

ビーザスの最大のなやみは、妹のラモーナです。ラモーナは、図書館の絵本にいたずら書きをしました。友だちとチェッカーで遊んでいるところに、三輪車でつっこんで、ゲームをめちゃくちゃにしました。箱に入ったリンゴを一口ずつかじりました。ラモーナにはお手上げです。

10　わんぱくきょうだい大作戦

マヤ・ヴォイチェホフスカ 作　清水真砂子 訳
岩波書店

母さんが生きていたころは、何もかもうまくいっていたのに、今はみんな大声を出して、けんかばかり。そこで３人兄弟は、父さんと結婚してくれそうな人をさがすことにします。末っ子のモットはスーパーで女の人を見つけると、父さんをひっぱってきて「この人はどう？」と聞いてみました。

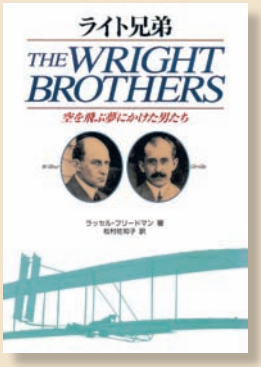
11　すえっこOちゃん

エディス・ウンネルスタッド 作
ルイス・スロボドキン 画
下村隆一、石井桃子 訳　フェリシモ
978-4-89432-277-6

Oちゃんは７人兄妹の末っ子、５歳の女の子です。 ある日、はしかにかかってたいくつしたOちゃんは、電話をかけてみました。すると、出たのは知らないおじさんでした。おじさんは、ぜったいはしかがうつらない遊び相手をつれていってあげると言いました。いったい、だれ？

ちしきのほん

12　ライト兄弟
空を飛ぶ夢にかけた男たち



ラッセル・フリードマン 著　松村佐知子 訳　偕成社
978-4-03-814140-9

ウイルバーとオービルは４歳違いの兄弟でした。ふたりは、こどものときからともに遊び、大人になってからはともに印刷所を作り、自転車店を経営し、やがて空を飛ぶことに熱中します。鳥が翼をかたむけて飛ぶ様子を観察し、自分たちの飛行機に応用して、実験をくりかえし、大空をめざしました。

おとうさん

13　こだぬき６ぴき

なかがわりえこ 文　なかがわそうや 画
岩波書店

つきみ山のてっぺんにタヌキの一家がすんでいます。おとうさんがゆりいすでいねむりしていると、６ぴきの子ダヌキが、あたまやひざにとびついて「おとうさん、おとうさん」とさけびます。おとうさんのかおを自分のほうへむけようとたたいたり、ひっかいたり、大さわぎ。

14　とうさんおはなしして

アーノルド・ローベル 作　三木卓 訳
文化出版局　978-4-579-40249-6

７ひきの子ネズミが、ねるまえに、とうさんにおはなしを１つねだりました。するととうさんは、ひとりに１つずつ、ぜんぶで７つもおはなしをしてくれました。ほかけぶねで出かけたネズミのはなし、おふろの水をあふれさせて、町中を水びたしにしたネズミのはなし…。

15　きつねのとうさん ごちそうとった

ピーター・スピアー 絵　松川真弓 訳
評論社　978-4-566-00262-3

月の明るいばん、キツネのとうさんが、えものをさがしに村にでかけました。そっと、とりごやにしのびこむと、カモやアヒルが大さわぎ。のうかのおじさんが、てっぽうをもっておいかけてきます。 キツネは、えものをくわえて、にげる、にげる、子ギツネのまつほらあなへ。

16　火のくつと風のサンダル

ウルズラ・ウェルフェル 作　関楠生 訳　童話館出版
978-4-924938-75-5

夏休みに、７さいのチムは、おとうさんと旅をすることになりました。村から村へ、くつなおしの仕事をするおとうさんと歩くのです。赤いくつをはいたチムは「火のくつ」、おとうさんは「風のサンダル」と新しく名前をつけました。リュックをしょって、さあ出発。

17　大きな森の小さな家

ローラ・インガルス・ワイルダー 作
ガース・ウィリアムズ 画　恩地三保子 訳　福音館書店
978-4-8340-0350-5

アメリカの開拓時代、大きな森にローラ一家が住んでいました。とうさんが鉄砲でうったシカを、かあさんがくんせいにします。畑をたがやし、パンやハムを作り、みんなでいつもいそがしく働きます。ローラたちの一番の楽しみは、夜、とうさんのひくヴァイオリンで歌うことでした。

おとうさん

ちしきのほん

18　タツノオトシゴ
ひっそりくらすなぞの魚

クリス・バターワース 文
ジョン・ローレンス 絵　佐藤見果夢 訳
評論社　978-4-566-00844-1

タツノオトシゴは、リュウのように見えますが、魚のなかまです。オスのおなかには、カンガルーのようなふくろがあります。メスがこのふくろにたまごを何百個も生みつけると、オスはしっかり口をとじます。やがてふくろの中のたまごがかえり、オスは昼も夜も赤ちゃんを生み続けます。

まじょ

19　ロバートのふしぎなともだち

マーガレット・マヒー 文
スティーブン・ケロッグ 絵　うちだりさこ 訳
ほるぷ出版

ある日、ロバートのあとをカバが１ぴきついてきました。つぎの日は４ひき、つぎの日は９ひき、カバはどんどんふえて 27 ひきがおしあいへしあい。おとうさんが、まじょをよんで、おまじないをしてもらいます。カバはみんな出て行きましたが、かわりにロバートについてきたのは…。

20　まほうつかいのノナばあさん

トミー・デ・パオラ 文・絵　ゆあさふみえ 訳
ほるぷ出版　978-4-593-50064-2

むかしイタリアに、ストレガ・ノナというまほうつかいのおばあさんがいました。ストレガ・ノナは、うたをうたうと、ほかほかのスパゲッティが出てくるふしぎなかまをもっています。おてつだいのアンソニイは、じぶんもかまをつかってみたくてたまりません。

21　小さい魔女

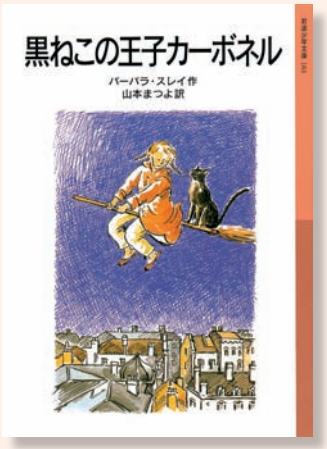
オトフリート・プロイスラー 作　大塚勇三 訳
学習研究社　978-4-05-104647-7

小さい魔女は、たったの 127 歳。大きな魔女たちのなかまに入るには、しけんに受からなくてはなりません。小さい魔女は魔法を勉強して、良い魔女になろうと決心します。たきぎ集めのおばあさんたちのために、風を吹かしてえだを落としたり、いじわるな人をこらしめたり、大かつやく。

22　魔女の宅急便

角野栄子 作　林明子 画　福音館書店
978-4-8340-0119-8

魔女の女の子キキは、13 歳になった満月の夜にひとり立ちをしました。お父さんとお母さんの家をはなれて、黒ネコのジジを連れ、ほうきに乗って、見知らぬ町へ飛んでいきました。新しい町でキキが始めたのは、宅急便。最初の荷物はかごに入ったぬいぐるみの黒ネコでした。



23　黒ねこの王子カーボネル

バーバラ・スレイ 作　山本まつよ 訳　岩波書店
978-4-00-114161-0

ロージーは、夏休みによその家のそうじをして、お金をかせいで、お母さんをおどろかそうと思いつきます。そこで市場に行って、あやしげなおばあさんから古びたほうきと黒ネコを買いました。ところがそれは魔女のほうきで、黒ネコは口をきくことができたのです。

24　空とぶベッドと魔法のほうき

メアリー・ノートン 作　猪熊葉子 訳　岩波書店

ケアリイ、チャールズ、ポールの姉弟は、近所のプライスさんがこっそり魔女の勉強をしているのを見つけます。プライスさんは秘密を守る代わりに、ベッドの丸いにぎりに魔法をかけてくれました。3 人がベッドに乗って、にぎりを回すと、行きたいと願った所へ飛んで行けるのです。

おいしゃさん

25　歯いしゃのチュー先生

ウィリアム・スタイグ 文・絵　うつみまお 訳　評論社
978-4-566-00290-6

ネズミのチュー先生は、うできききのはいしゃです。モグラやシマリスのような小さなかんじゃは、いすにすわり、ロバやウシなど大きなかんじゃは、先生が口のなかにはいって、ちりょうします。とてもにんきがありますが、ネコやキツネなど、きけんなどうぶつはおことわりです。

26　ひとまねこざる びょういんへいく

マーガレット・レイ 文　H.A. レイ 絵　光吉夏弥 訳
岩波書店　978-4-00-110926-9

サルのじょーじは、とてもしりたがりや。ある日、つくえの上のはこをのぞいて、中にあった小さなかけらをひとつ、たべてみました。そのうち、おなかがいたくなってきて、とうとうにゅういんすることになりました。じょーじは、びょういんでおとなしくしていられるでしょうか？

27　ちかちゃんの はじめてだらけ

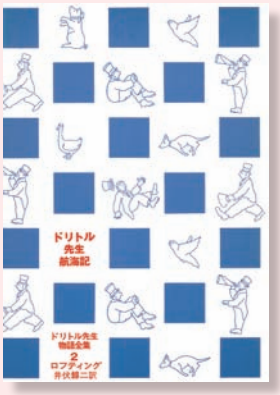
薫くみこ 作　井上洋介 絵　日本標準
978-4-8208-0294-5

ちかちゃんは歯医者さんに行ったことがありません。友だちのゆうたは、歯でサイダーのビンをあけようとして、ギン歯が取れてしまいました。ゆうたはへいきなかおで、今から歯医者さんに行くというのです。ちかちゃんがついていくと、ゆうたは歯医者さんにかかるコツを教えてくれました。

28　長い長いお医者さんの話

カレル・チャペック 作　中野好夫 訳　岩波書店
978-4-00-114002-6

お医者さんというものは、病人をみてくださいとたのまれたら、ことわることができないのです。たとえその人が恐ろしいおいはぎであっても、まっ黒な悪魔であっても、ウメの種をのどにつまらせた魔法使いや声が出なくなった妖精であっても。ずいぶんたいへんな仕事ですね。



29　ドリトル先生航海記

ロフティング 作　井伏鱒二 訳　岩波書店
978-4-00-115002-5

ドリトル先生は、動物の言葉が話せるお医者さんです。先生は動物の話を聞いて、病気を治してくれるのです。その上、動物たちがつらい目にあっていると、きっと助けてくれます。だから動物たちは、先生と家族が航海のとちゅうで難破しているのを見て、すぐに助けてくれました。

ちしきのほん

30　どうぶつえんのおいしゃさん

降矢洋子 作　福音館書店
978-4-8340-0865-4

朝、どうぶつえんのおいしゃさんは、どうぶつたちがげんきか、見てあるきます。それからにゅういんしているどうぶつたちのえさを作ります。えさには、くすりをまぜます。ライオンのけが、シマウマのつめきり、キツネのけつまくえん。どうぶつたちのちりょうにおおいそがしです。

ごきげんなおんなのこ

31　まあちゃんのながいかみ

たかどのほうこ 作　福音館書店
978-4-8340-1330-6

まあちゃんのかみは、みじかいおかっぱ。友だちのはあちゃんとみいちゃんは、かみの長いのがじまんです。まあちゃんは、「あたしは、もっとながくのばすの」といいます。その長いことといったら、高いつりばしの上からおさげをたらして、川のさかながつれるくらいですって。

32　ロージーちゃんのひみつ

モーリス・センダック 作・絵　なかむらたえこ 訳
偕成社　978-4-03-431080-9

ロージーの家のげんかんに、ふだがかかっています。「ひみつをおしえてほしい人は、この戸を３どたたくこと」　キャシーが、戸をたたいて「ひみつってなあに？」ときいたら、ロージーが「あたしは、もうロージーじゃないの。アリンダっていうすてきなかしゅよ」というのです。

33　長くつ下のピッピ

リンドグレーン 作　大塚勇三 訳　岩波書店
978-4-00-115061-2

ごたごた荘にやってきたピッピは、世界一つよい女の子。馬一頭をまるごと持ち上げることもできます。ニンジン色のおさげと右と左の色がちがう長くつ下。サルのニルソン氏と馬と住み、「はやくねなさい」といわれることもなく、毎日たのしいことばかり。

34　ペニーの日記 読んじゃだめ

ロビン・クライン 作　アン・ジェイムズ 絵
安藤紀子 訳　偕成社　978-4-03-631130-9

10 歳のペニーは、ピンクのドレスやリボンが大きらい。それにお年よりも。好きなのは馬です。蹄鉄（ていてつ）は 47 個、馬のカードは 350 枚も集めました。ペニーは、ボランティアで出かけた老人ホームで、81 歳のベタニーさんと知り合い、馬のことをいろいろ教えてもらいます。

35　マチルダは ちいさな大天才

ロアルド・ダール 作　クェンティン・ブレイク 絵
宮下嶺夫 訳　評論社　978-4-566-01425-1

マチルダは、１歳半でなめらかにしゃべり、３歳になる前には、家にある本や雑誌で、ひとりで字を覚えました。４歳４ヶ月のときには、図書館にあるこどもの本を全部読んでしまいました。そこで図書館員に、大人の人が読む有名な本を教えてと頼みました。

ちしきのほん

36　遊んで遊んで リンドグレーンの子ども時代

クリスティーナ・ビヨルク 文
エヴァ・エリクソン 絵　石井登志子 訳
岩波書店　978-4-00-115582-2

『長くつ下のピッピ』の作者、リンドグレーンはスウェーデンの農家に生まれました。木登り、お話ごっこ、「もの発見家遊び」、手紙ごっこ…、兄弟や友だちと遊んで遊んで遊ぶ毎日。ちょっぴりお手伝いもしたけれどね。楽しい絵と写真がリンドグレーンのこども時代を教えてくれます。

ちいさいひと

37　いっすんぼうし

いしいももこ 文　あきのふく 絵　福音館書店

むかし、あるところにおじいさんとおばあさんがすんでいました。ふたりには、こどもがありませんでした。とてもさびしいので、おてんとうさまに、おねがいすると、おやゆびくらいの男の子がうまれました。いっすんぼうしとなまえをつけ、かわいがってそだてました。

38　いたずら小人プムックル

カウト 作　大塚勇三 訳　学習研究社

プムックルは、いたずらが大好きです。ふだんは人間の目には見えませんが、家具師のエーダー親方のうちで、うっかりにかわにくっついて、すがたをあらわしてしまいます。プムックルは、足をつねったり、板の上のおがくずをはきおとしたり、エーダー親方をこまらせます。

39　パディーの黄金のつぼ

ディック・キング＝スミス 作　三村美智子 訳
岩波書店　978-4-00-115993-6

レプラコーンは、だれにも見えない小さな人です。アイルランドに住んでいるひとりっ子が、たんじょう日に長ぐつをはいていて、その長ぐつのかたっぽにあながひとつあいていたら、会うことができるんです。ブリジッドの８さいのたんじょう日にそのとおりのことがおこりました。

40　床下の小人たち

メアリー・ノートン 作　林容吉 訳　岩波書店
978-4-00-110931-3

古い家の床下に、アリエッティたち３人家族が住んでいました。くらしに必要なものは、すべてこっそり人間から借りています。マッチ箱でタンスを作り、切手をかべにかざり、すいとり紙をじゅうたんにして…。ある日、アリエッティはその家の男の子に姿を見られてしまいます！

41　木かげの家の小人たち

いぬいとみこ 作　吉井忠 画　福音館書店
978-4-8340-0103-7

妖精（ようせい）のアッシュー家は、イギリス人のミス・マクラクランのバスケットに入れられて、日本にやってきました。一家は、毎日、人間から空色のコップに一杯のミルクをもらって暮らしていました。やがてミス・マクラクランは教え子の達夫にアッシュー家をまかせて、帰国します。

ちしきのほん

42　あかちゃんてね

星川ひろ子・星川治雄 著　小学館
978-4-09-726041-7

わたしのうちに赤ちゃんがうまれたよ。まっかなかおでないている。だから赤ちゃんっていうのかな？　はじめは、おっぱいをのんで、ねむってばかり。でもあやすとよろこぶようになって、はもはえてきた。１ねんで、びっくりするほど大きくなったよ。

なまけもの

43　おさらをあらわなかった おじさん

フィリス・クラジラフスキー 文　バーバラ・クーニー 絵
光吉夏弥 訳　岩波書店　978-4-00-115135-0

ある日おじさんは、とてもおなかがへったので、ばんごはんをたくさん食べました。おなかがいっぱいでうごけず、おさらをあらいませんでした。つぎのばんも、そのつぎのばんもおなじことに。とうとう、きれいなおさらは１まいもなくなり、おじさんは、はいざらでたべました。

44　りんごのきに こぶたがなったら

アニタ・ローベル 絵　アーノルド・ローベル 文
佐藤涼子 訳　評論社　978-4-566-00239-5

おひゃくしょうさんとおかみさんは、いちばで子ブタをたくさん買いました。よく朝おかみさんは、トウモロコシのたねまきをてつだっておくれとたのみました。ところがなまけもののおひゃくしょうさんは、にわに子ブタがさいたらてつだうといって、ぐうぐうねてばかり。

45　ものぐさトミー

ペーン・デュボア 文・絵　松岡享子 訳
岩波書店　978-4-00-115129-9

トミー・ナマケンボの家はでんきじかけです。トミーが、ゆび１ぽん動かさなくても、きかいが何もかもやってくれます。でんきハブラシがはをみがき、でんきブラシがかみをとかし、上を向いているだけで、口の中におかゆやバナナ、たまごやトーストがつぎつぎと入ってきます。

46　おそうじをおぼえたがらない リスのゲルランゲ

J・ロッシュ＝マゾン 作　堀内誠一 画　山口智子 訳
福音館書店　978-4-8340-0399-4

11 ぴききょうだいの子リスたちは、まいばんじゅんばんにおそうじをします。でも末っ子のゲルランゲだけはおそうじがきらいでちっともしません。とうとうおばあさんにおこられて、家出します。えだからえだへとんでいくうち、足をふみはずしてオオカミの上に落ちてしまいました。

47　なまくらトック

東京子ども図書館 編　東京子ども図書館
978-4-88569-051-8

トックは生まれながらのめんどうくさがりやでした。赤ちゃんの時もぜんぜん泣かなかったので、みんなはトックのことをなんていい子だろうといいました。でも本当のことをいえば、トックは、泣くなんてめんどうなこと、はじめっからぜんぜんする気がなかったのです。

48　大力ワーニャの冒険

オトフリート・プロイスラー 作　堀内誠一 絵
大塚勇三 訳　瑞雲舎　978-4-916016-40-9

ワーニャは３人兄弟の末っ子。兄さんたちは働き者でしたが、ワーニャはとほうもないなまけものでした。あるときワーニャは、森で老人に会い、しょうらい皇帝になると予言されました。でもそのためには、７年間だれとも口をきかずにパンやきかまどの上にいなければならないのです。

どろぼう

49　おんどりとぬすっと

アーノルド・ローベル 作
アニータ・ローベル 絵　うちだりさこ 訳
偕成社

ある暗いよる、オンドリがねむっているなやに、ぬすっとがしのびこみました。オンドリをころしてしまえば、ずっと夜中のままで、だれにも見られずにぬすみができるとかんがえたのです。ところがかしこいオンドリは、ぬすっとをみごとだまして、たいようをおこします。

50　どろぼうがっこう

かこさとし 絵・文　偕成社
978-4-03-206040-9

どろぼうがっこうのせいとたちは、うんとべんきょうして、早くわるいどろぼうにならなければなりません。きょうは、かねもちむらにえんそくです。よるになるとぬきあし、さしあし、しのびあし。みんなで、いちばん大きなおやしきに、しのびこみました。

51　大どろぼう ホッツェンプロッツ

プロイスラー 作　中村浩三 訳　偕成社
978-4-03-608250-6

ホッツェンプロッツは、７本の短刀をこしにさす、おそろしい大どろぼう。ある日、おばあさんをピストルでおどし、だいじなコーヒーひきをうばい取ります。まごのカスパールと友だちのゼッペルは、コーヒーひきをとりもどそうと、大どろぼうのかくれがをさがします。

52　山賊のむすめローニャ

リンドグレーン 作　大塚勇三 訳　岩波書店
978-4-00-115079-7

雷のとどろく日、山の上の城に住む山賊の頭マッティスに女の子が生まれました。その子はローニャと名づけられ、山賊たちにかわいがられ、元気に育ちました。ある日、ローニャは、城の向こう側で、一人の男の子にあいます。それは敵の山賊の息子、ビルクでした。

53　モモ

時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子のふしぎな物語

ミヒャエル・エンデ 作　大島かおり 訳
岩波書店　978-4-00-110687-9

古い廃墟に小さな女の子のモモが１人で住んでいました。たくさんのこどもや大人が、モモのところに来て、話を聞いてもらい、幸せな気持ちになりました。そのころ、町のあちこちに灰色の男たちが現れて、人々の時間をぬすんでいました。これに最初に気づいたのはモモでした。

ちしきのほん

54　小町算と布ぬすっと算

わらべうたと物語でつづるたのしい算数

山崎直美 著　さ・え・ら書房
978-4-378-03840-7

呉服屋で反物をぬすみだしたどろぼうたちが、橋の下でひそひそ話をしています。「反物はみな同じだけ分けることにしよう。８反ずつ分ければ７反たらず、７反ずつ分ければ８反あまる」どろぼうは何人、ぬすまれた反物は何反でしょう？これは、日本に古くから伝わる算数です。

めいたんてい

55　たんたのたんてい

中川李枝子 作　山脇百合子 絵　学習研究社
978-4-05-104615-6

たんたが、あさ、しんぶんをとろうとすると、ゆうびんうけに、にんじん色のつかいかけのはみがきが入っていました。「しんぶんが、はみがきになるなんて、どうして？　よし、にんじんばたけに行って、たんていしよう」とたんたはでかけます。

56　くものすおやぶん とりものちょう

秋山あゆ子 作　福音館書店
978-4-8340-2149-3

虫の町では、くものすおやぶんが、ぴょんきちをつれて、町の見まわり。おかしやの「ありがたや」のみせさきをとおりかかると、「あっ、おやぶんさん」とみせのアリたちがかけよってきました。ぬすっとから「こんや、おかしをちょうだいする」とてがみが来たというのです。

57　エーミールと 探偵たち

エーリヒ・ケストナー 作　池田香代子 訳
岩波書店　978-4-00-114018-7

ベルリン行きの汽車に乗ったエーミールは、お母さんから預かったお金が心配でたまりません。向かいの席の山高帽（やまたかぼう）の男がどうもあやしい。エーミールはうっかり眠ってしまい、目を覚ますとお金がありません。駅の人ごみの中に見えた山高帽（やまたかぼう）を追って、エーミールは汽車を降ります。

58　名探偵カッレくん

リンドグレーン 作　尾崎義 訳　岩波書店
978-4-00-115068-1

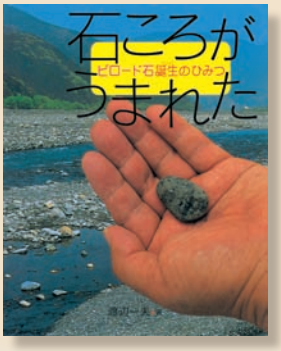
カッレは、シャーロック・ホームズよりえらい探偵になるつもりでした。夏休みも毎日、町のパトロールを欠かしません。そこへ現れたのは、友だちの親戚、エイナルおじさん。おじさんは合鍵を持ち歩き、真夜中に窓から抜け出します。カッレはおじさんを見張ることにします。

59　六人の探偵たち

アーサー・ランサム 作　岩田欣三 訳
岩波書店　978-4-00-115039-1

ジョーとビルとピートは、川の桟橋につないだボートにねとまりしていました。ある日、隣りに停泊していた船が流されて３人がうたがわれます。そこでうたがいを晴らすために自分たちで真犯人を探すことにします。みんなで現場に行くと、真新しい自転車のタイヤのあとが見つかりました。

ちしきのほん



60　石ころがうまれた
ビロード石誕生のひみつ

渡辺一夫 著　ポプラ社　978-4-591-08384-0

わたしは静岡県の海岸で、きれいな石ころをひろいました。深い緑色をして、にぎるとビロードのような手ざわりです。ずかんにも名前はありません。そこでわたしは、このビロード石がどこからやってきたのかを探偵することにしました。「ビロード石捜査本部」の始まりです。

おうさま

61　クッキーのおうさま

竹下文子 作　いちかわなつこ 絵　あかね書房
978-4-251-04019-0

りさちゃんは、おかあさんとクッキーをやきました。さいごにのこったざいりょうで、王さまのかたちのクッキーをつくり、オーブンに入れました。やきあがると、クッキーの王さまは「あち、あち、あちち！」とさけびながら、とびだしてきました。

62　ぼくは王さま

寺村輝夫 作　和田誠 絵　理論社
978-4-652-00506-4

王さまは、しゃぼん玉がたいそう気に入りました。ふわふわとうかんで、にじ色に光って、みんなの顔やけしきがさかさまにうつります。このすてきなしゃぼんだまを糸でつないで 首かざりを作り、国のたからにすることにしました。

63　はだかの王さま

アンデルセン 作　バージニア・リー・バートン 絵
乾侑美子 訳　岩波書店
978-4-00-110876-7

むかし、新しい服を着るのが大好きな王さまがいました。ある日、ふたりの男がやってきて、美しいまほうの布をおることができるといいました。その布で作った服は、おろかな者や役目にふさわしくない者には見えないというのです。そこで王さまは布をおってもらうことにしました。

64　ギルガメシュ王ものがたり

ルドミラ・ゼーマン 文・絵　松野正子 訳
岩波書店　978-4-00-110617-6

むかし、メソポタミアに、太陽神からおくられたギルガメシュという王がいました。王は、人間の心がどういうものか知らず、無理やり高い城壁を作らせたりして人々を苦しめました。人々が助けてくださいと祈ったので、太陽神は、今度はエンキドゥという人間をおくりました。

65　アルフレッド王の戦い

C・W・ホッジズ 作　神宮輝夫 訳　岩波書店

９世紀のイングランドの話です。少年のアルフレッドは、手に入れた馬具を同じ名前の人に渡すようにとのお告げを受け、アルフレッド王を訪ねました。初めて会ったアルフレッド王は、そまつな衣服を身にまとっただの兵士のようでした。

ちしきのほん

66　オオカミ王ロボ シートン動物記

アーネスト・T・シートン 文・絵　今泉吉晴 訳・解説
童心社　978-4-494-01267-1

ニューメキシコの高原、クルンパを支配しているのは、ハイイロオオカミのロボでした。特別大きくかしこいロボは、群れをひきいて次々とウシをおそい、人々に恐れられていました。何人もの猟師がワナや毒をしかけても、ロボは人間をあざわらうように、見破ってしまうのです。

おひめさま

67　ねむりひめ　グリム童話

フェリクス・ホフマン 絵　せたていじ 訳　福音館書店
978-4-8340-0014-6

あるくにに、おひめさまがうまれました。王さまは 大よろこびで、おいわいのえんかいをひらきました。すると、よばれなかったうらないおんながやってきて、「ひめは、15 になったら、つむにさされて、たおれてしぬぞ！」とのろいのことばをさけんで、さっていきました。

68　小さな山神スズナ姫

富安陽子 作　飯野和好 絵　偕成社
978-4-03-528310-2

スズナ姫は、偉大な山神、喜仙大厳尊のひとりむすめ。あと 3 日で 300 さいになるスズナ姫は、スズナ山の山神としてひとりだちしたいと思っていました。お父さんは、一日で山の木の葉ぞめができたら、みとめようと言いました。スズナ姫は雲にのって、はりきって出かけます。

69　なまけものの王さまとかしこい王女のお話

ミラ・ローベ 作　ズージ・ヴァイゲル 絵
佐々木田鶴子 訳　徳間書店　978-4-19-861372-3

ナニモセン五世は、代々の王さまと同じようにふとっていて、ナマケモノでした。落ちたかんむりをひろうのも、333 人いる家来にやらせます。一方、ピンパーネッラ王女は、王家の生まれにしては変わっていて、ぜんぜんふとっていないし、一日中お城のなかを走りまわっていました。

70　トンボソのおひめさま

バーボー、ホーンヤンスキー 文　石井桃子 訳
岩波書店　978-4-00-110302-1

昔、王さまが、３人の王子にそれぞれ宝物を残して死にました。３番めの王子、ジャックが手に入れたのは、どこへでも行けるまほうのベルト。ジャックは、ベルトをまきつけて、トンボソに行きます。そこには、月のように美しいおひめさまが住んでいるというのです。

71　かるいお姫さま

マクドナルド 作　脇明子 訳　岩波書店
978-4-00-114133-7

昔、ある国にかわいいお姫さまが生まれました。ところが、魔女にのろいをかけられて、心も軽く、体も軽く、まったく重さがなくなってしまったのです。お姫さまは、ゆすりあげただけで、天井までふわふわと飛んでいってしまい、下におろすのに大さわぎです。

ちしきのほん

72　お姫さまのアリの巣たんけん

秋山あゆ子 作　福音館書店
978-4-8340-2233-9

虫が好きなお姫さまが、友だち５人とアリを観察していました。するとふしぎな仙人があらわれて、みんなの体を小さくして、アリの巣へ連れて行ってくれました。巣はめいろのようにつながっています。働きアリがたまごや幼虫の世話をし、大きな女王アリがたまごを生んでいます。

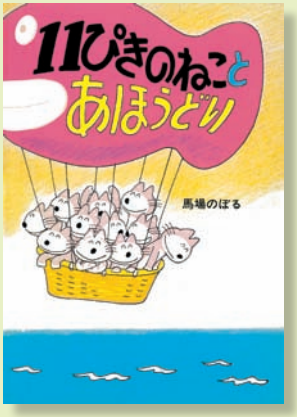
うれしいな、たのしいな

ごちそう

73　ジャイアント・ジャム・サンド

ジョン・ヴァーノン・ロード 文・絵
安西徹雄 訳　アリス館
978-4-7520-4012-5

あついなつ、チクチク村にとんできた４ひゃくまんびきのハチのたいぐん。こまった村人、そうだんし、あまいジャムサンドでハチをつかまえようときめました。大きな大きなパンをやき、ダンプカーでジャムをはこび、ジャイアント・ジャム・サンドのできあがり。



74　11ぴきのねことあほうどり

馬場のぼる 作　こぐま社　978-4-7721-0033-5

11ぴきのネコがコロッケやをはじめました。お店はだいはんじょう。でも、そのうち売れのこるようになりました。ネコたちのごはんは、毎日コロッケばかり。「とりのまるやきがたべたいねえ」といっていると、１わのおいしそうなアホウドリが、コロッケを買いにやってきました。

75　へんなどうつぶ

ワンダ・ガーグ 文・絵　わたなべしげお 訳
岩波書店

ボボじいさんは、いつもとりやどうぶつたちに、くるみのケーキやたねいりプディングをごちそうしていました。ある日、見たことのないどうぶつがやってきて、自分は「どうつぶ」だといいました。やさしいボボじいさんは、どうつぶにおいしいごちそう、じゃむ・じるを作ってあげます。

76　せかい１ おいしいスープ

マーシャ・ブラウン 再話・絵　わたなべしげお 訳
ペンギン社

おなかをすかせたへいたいが３人、ある村にやってきました。村人たちは、大切なたべものをかくしてしまいます。そこでへいたいたちは、「石でスープを作ります」といいだしました。石でスープを作るなんて！　村人たちは目を丸くしました。

77　村は大きなパイつくり

ヘレン・クレスウェル 作　猪熊葉子 訳　岩波書店

ある時、王様がパイづくり大競技会を開くことになりました。最大で最上のパイを作ったものは、戸口に王家の紋章（もんしょう）をいただくことができるのです。パイ作りで名高いダンビー村では、2,000 人分のパイを作ることにします。材料は、粉 90 キロ、肉 90 キロ、タマネギ 22.5 キロ…。

ちしきのほん

78　手で食べる？

森枝卓士 文・写真　福音館書店
978-4-8340-2072-4

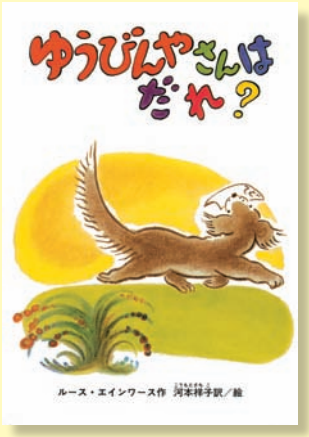
わたしたちは、はしやスプーン、フォークとナイフなどいろいろな道具を使って、ごちそうを食べます。でもインドやミャンマーの人たちは、手でじょうずに食べます。ごはんとカレーをよくまぜて、指先でつまんで、口に持っていきます。手でもごちそうを味わっているのです。

てがみ

79　ゆうびんやさんはだれ？

ルース・エインワース 作　河本祥子 訳・絵
福音館書店

にわにすむどうぶつやとりたちは、石の下にてがみをおいて、ポストのかわりにしていました。でもくばる人がいないので、ゆうびんやさんをきめることにしました。だれがうまくてがみをくばれるか、ためすことになります。子ネコ、リス、子イヌ、コマドリ、だれがなるでしょう。



80　どんぐりと山ねこ

宮沢賢治 作　高畠純 絵　岩崎書店
978-4-265-07101-2

ある土曜日の夕がた、おかしなはがきが、一郎のうちにきました。手紙には「あした、めんどなさいばんしますから、おいでんなさい」と書いてありました。そこで、一郎が山に出かけていくと、草地のまんなかで、ドングリたちのさいばんが始まりました。

81　おたよりください

K. スンド 作　A. セラーノ＝プネル 絵
木村由利子 訳　大日本図書

リンダは８さい。しんぶんに「おたよりください。オルガ（８さい）」というこうこくが出ていたので、オルガさんに手紙を書いてみました。すぐ返事が返ってきましたが、オルガさんは 80 さい、新聞がまちがえたのです。でも８さいと 80 さいのふたりは、文通を始めます。

82　エドウィナからの手紙

スーザン・ボナーズ 作　ナカムラユキ 画
もきかずこ 訳　金の星社
978-4-323-06319-5

ある日、エドウィナは古い手紙のたばを見つけました。自分と同じ名前の大・大おばさんが、市の偉い人たちに意見を述べた手紙です。エドウィナは大・大おばさんのまねをして、公園のブランコを直してくれるよう、市長さんに手紙を書きました。それがうまくいくと､次々手紙を書いて…。

83　ヘンショーさんへの手紙

B. クリアリー 作　むかいながまさ 画
谷口由美子 訳　あかね書房

リー・ボッツは、２年生のときに作家のヘンショーさんに手紙を書きました。それから毎年書き続けました。６年生になって、学校で作家についてレポートを書くことになり、またまたヘンショーさんに質問だらけの手紙を出しました。するとお返しに質問状が届いてしまいます。

ちしきのほん

84　てがみはすてきなおくりもの

スギヤマカナヨ 著　講談社
978-4-06-212181-1

てがみって、きまった大きさのはがきやふうとうでなければ出せないとおもっていませんか？　大きなはっぱやかいがらにペンで字をかけば、はがきになります。まるいかみざらもポケットをつけたはがきもちゃんとおくれます。この本には、すてきなてがみのヒントがいっぱい。

としょかん

85　アンディとらいおん

ジェームズ・ドーハーティ 文・絵
むらおかはなこ 訳　福音館書店
978-4-8340-0003-0

アンディはとしょかんでライオンの本をかりて、むちゅうでよみました。おじいさんからライオンがりの話を聞いて、あたまの中はライオンでいっぱい。つぎの朝、がっこうへいくとき、岩のかげにへんなものが見えました。そっとちかづくと、それはなんとライオンでした。

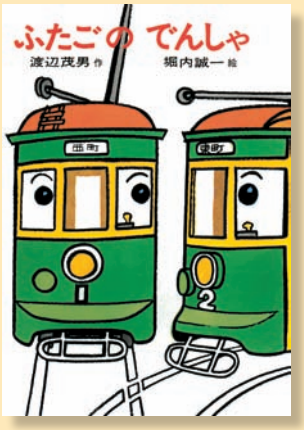
86　はちうえはぼくにまかせて

ジーン・ジオン 作
マーガレット・ブロイ・グレアム 絵
もりひさし 訳　ペンギン社
978-4-89274-016-9

トミーは、夏休みにりょこうにでかける人たちのはちうえをたくさんあずかりました。 はちうえは、どんどんのびて、家の中はジャングルみたいに。トミーはとしょかんにとんでいって、しょくぶつの本をかたっぱしからひらきました。するとちゃーんとかいけつ法がみつかりました。

87　ふたごのでんしゃ

渡辺茂男 作　堀内誠一 絵　あかね書房
978-4-251-00645-5



まいにち、町の人たちをはこびつづけたふたごのでんしゃ、べんけいとうしわか。みちが車やバスでこみあうようになると、じゃまにされはじめます。ついに、いんたいすることになったふたごのでんしゃは、しちょうさんのアイデアで、こどもとしょかんに生まれかわりました。

88　図書館員になった山賊たち
「海賊の大パーティ」から

マーガレット・マヘイ 作　クェンティン・ブレイク 絵
猪熊葉子 訳　大日本図書

ある日、図書館員ラバーナムさんが山賊にさらわれました。ところがその後、山賊たちは、はしかにかかってしまいます。ラバーナムさんは図書館から『効果的家庭看護法事典』を借りてきて、看病し、ついでに本を読んであげました。山賊たちは、むちゅうになってお話を聞きました。

89　やったね、ジュリアス君

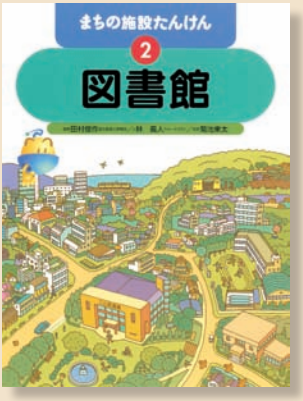
クラウディア・ミルズ 作　玉村敬子 絵
はらるい 訳　さ・え・ら書房
978-4-378-00783-0

ジュリアスは 12 歳。プールで楽しくすごすはずの夏休みに、母親のすすめで、フランス語の勉強とベビーシッターと読書をするはめになりました。フランス語教室では初日からさんざんだし、子守をする男の子はやんちゃだし、図書館で借りた「二都物語」は全然読めないし…。

ちしきのほん

90　図書館
まちの施設たんけん 2

林義人 文　菊池東太 写真　小峰書店
978-4-338-19802-8



だれでもゆっくり本を読んだり、借りたりできる図書館。ずらりとならんだ本だなには、本だけではなく、新聞やざっし、ＣＤもあります。こどものコーナーでは、おはなし会をしています。目の不自由な人に本や雑誌を読みあげたり、病院へ本をとどけるサービスもあります。

なぞなぞ

91　なぞなぞのすきな女の子

松岡享子 作　大社玲子 絵　学習研究社
978-4-05-104612-5

なぞなぞのすきな女の子がいました。ある日、あそびあいてをさがしに森へ行くと、オオカミにあいました。オオカミは、ひるごはんにたべる女の子をさがしていたのです。女の子は、オオカミになぞなぞをだしました。オオカミはかんがえても、かんがえても、あてることができません。

92　りすのナトキンのおはなし

ビアトリクス・ポター 作・絵
いしいももこ 訳　福音館書店
978-4-8340-1864-6

リスのナトキンは、にいさんたちと木の実をとりに、ふくろうじまに行きました。なまいきなナトキンは、フクロウのブラウンじいさまに、あいさつもしないで「なぞなぞかけた　なぞかけた！」とぴょんぴょんはねながらうたいました。フクロウはおこって、ナトキンをつかまえました。

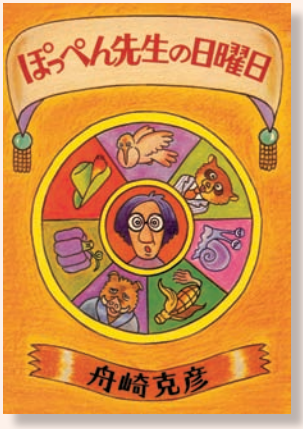
93　なぞとき名人のお姫さま フランスの昔話

山口智子 編・訳　パトリス・アリスプ 絵
福音館書店　978-4-8340-1343-6

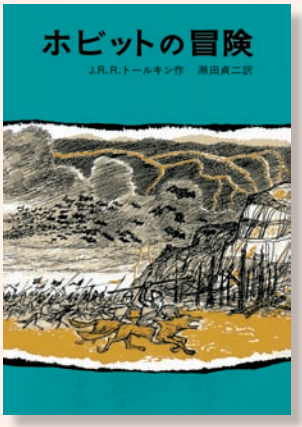
むかし、フランスになぞとき名人のお姫さまがいました。どんななぞでもとけるようになったお姫さまは、国中におふれをだしました。お姫さまが３日たってもとけないなぞを持ってきた人を夫にする、ただしお姫さまがといてしまえば、その人はころされるというのです。

94　ぽっぺん先生の日曜日

舟崎克彦 著　筑摩書房　978-4-480-88006-2



ある日、ぽっぺん先生は、なぞなぞの絵本の中に入ってしまいました。絵本のなぞなぞをとかなければ、出てこられません。「タヌキ、クロブタ、ダチョウ、トガリネズミ。この中で、はなしのおもしろいどうぶつはどれでしょう」こんなへんてこななぞなぞ、とけるでしょうか？



95　ホビットの冒険

J.R.R. トールキン 作　瀬田貞二 訳　岩波書店
978-4-00-110983-2

ホビットのビルボ・バギンズは、13人のドワーフとともに、竜（りゅう）にうばわれた宝をとりかえす冒険の旅に出ます。道中、なかまとはぐれたビルボは、まっくらなトンネルできみのわるいゴクリと出会います。ゴクリの出すなぞなぞがとけなければ、食べられてしまうのです。

ちしきのほん

96　なぞなぞえほん　1のまき

中川李枝子 作　山脇百合子 絵　福音館書店
978-4-8340-0741-1

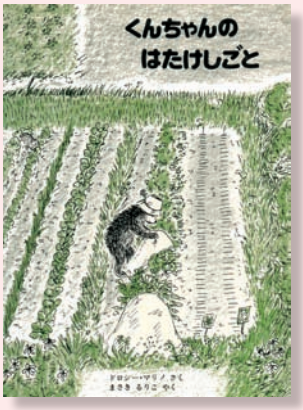
「ひらくと おはなしが はじまって とじると おしまい」「きょうの　ごちそう　なにかしら？　みないであてる　あなが　ふたつの　めいたんてい」

こたえがわかりますか？　この本にはおもしろいなぞなぞがたくさんのっています。ぐりとぐらといっしょにかんがえてみよう！

ガーデニング

97　くんちゃんのはたけしごと

ドロシー・マリノ 作　まさきるりこ 訳　ペンギン社
978-4-89274-022-0



くんちゃんは、おとうさんのはたけしごとのてつだいをしました。くまでで土をひっかき、ざっそうに水をかけ、花をぬき、そのたびにおとうさんが「ちがう、ちがう！」とさけびました。そこでくんちゃんは、おとうさんのやることをじっと見て、さいごはうまくおてつだいしました。

98　リディアのガーデニング

サラ・スチュワート 文　デイビッド・スモール 絵
福本友美子 訳　アスラン書房
978-4-900656-30-7

リディアは、くらしむきがよくなる間、パン屋のおじさんの家にあずけられることになりました。家から持ってきた種をまいて、お店を花でいっぱいにしました。お客さんたちは喜びましたが、おじさんはにこりともしません。そこでリディアは屋上にもひみつの庭を作りました。

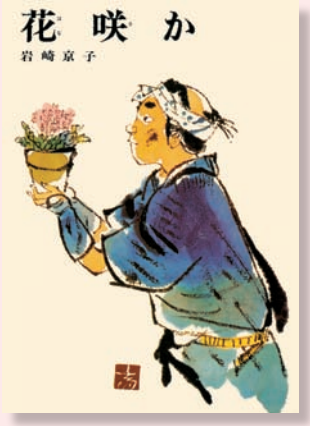
99　花仙人　中国の昔話

松岡享子 文　蔡皋 画　福音館書店
978-4-8340-1444-0

昔、中国に秋先という老人がいました。秋先は、花が好きで、庭にみごとな花を咲かせていました。あるとき、村のならず者たちが来て、花を折ったり、ふんだり、らんぼうをしました。秋先が泣いていると、美しい娘があらわれて、落ちた花をもとにもどす術を知っていると言います。

100　花咲か

岩崎京子 著　偕成社　978-4-03-719230-3



文化３（1806）年、13 歳の常七は江戸の植木屋に奉公に入ります。草木や土をいじるのが性に合い、修行も苦になりません。常七は、親方のお供で行ったお屋敷の見事なサクラが忘れられず、だれでもが見られるように、江戸中にサクラを咲かせたいと思います。

101　秘密の花園

F.H. バーネット 作　堀内誠一 画
猪熊葉子 訳　福音館書店
978-4-8340-0758-9

両親をなくして、おじの屋敷に住むことになったメリーは、高いへいで囲まれた秘密の庭を見つけました。メリーは、庭へこっそり入って、雑草をぬき、土をたがやし、球根を植え、根気よく働きました。やがて荒れ果てていた庭には、小さなうす緑の芽が頭を出し始めました。

ちしきのほん

102　リネアの小さな庭

クリスティーナ・ビョルク 文
レーナ・アンデション 絵　山梨幹子 訳　世界文化社

葉っぱや花や種が好きな女の子、リネアが、植物の育て方を教えてくれます。アボカドの種を植えると、芽がでてきます。枝を切るとどんどん育ちます。オレンジやメロン、トマトの種からも芽が出てくるんですよ。さし芽をして植物をふやしたり、球根をうめたり、庭作りは楽しい。

おくりもの

103　しんせつなともだち

方軼羣 作　村山知義 画　君島久子 訳
福音館書店　978-4-8340-0132-7

子ウサギがたべものをさがしていると、ゆきの上にカブが２つおちていました。子ウサギは１つだけたべて、のこりはロバさんの家にもっていきました。ロバさんがサツマイモを見つけて家にかえると、カブがおいてあります。ロバさんは、そのカブをヤギさんにあげることにします。

104　おかえし

村山桂子 作　織茂恭子 絵　福音館書店
978-4-8340-0482-3

ある日、キツネのおくさんが、ひっこしのあいさつに、タヌキの家へイチゴを持ってきました。タヌキのおくさんが、おかえしにタケノコを持っていくと、キツネのおくさんが「おかえしのおかえし」に花とかびんを持ってきます。そこでタヌキのおくさんは…。

105　１ねんに 365 のたんじょう日 プレゼントをもらった ベンジャミンのおはなし

ジュディ・バレット 作　ロン・バレット 絵
まつおかきょうこ 訳　偕成社
978-4-03-327070-8

ともだちから、たんじょう日プレゼントをもらったベンジャミンは、うれしくてたまりません。すてきなズボン、ローラースケート、パズル、とり…。でも、つぎのたんじょう日がくるまで、まる１年もあるのです。そこで、365 日、プレゼントをもらえるほうほうをかんがえました。

106　しずくの首飾り

ジョーン・エイキン 作　猪熊葉子 訳　岩波書店
978-4-00-110384-7

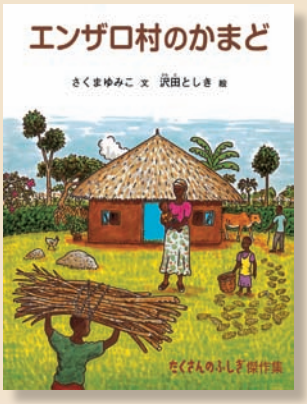
ローラは、生まれたときに、北風から雨つぶが３つついたしずくの首飾りをもらいました。それをかけていると、ローラは雨にぬれないのです。北風はたんじょう日のたびに、雨つぶをひとつずつくれ、雨つぶが９つになったとき、ローラは手をたたけば雨をとめることできました。

107　台所のマリアさま

ルーマー・ゴッデン 作　猪熊葉子 訳　評論社
978-4-566-01136-6

お手伝いのマルタが来てから、台所はいごこちがよくなったとグレゴリーとジャネット兄妹は思っていました。でもマルタは、マリアさまとおさなごのキリストの像がある「いい場所」がないと悲しむのでした。２人は、ビーズでかざられたマリアさまの像を手に入れようと決心します。

ちしきのほん



108　エンザロ村のかまど

さくまゆみこ 文　沢田としき 絵　福音館書店
978-4-8340-2449-4

ケニアのエンザロ村には、水道も電気もないけれど、女の人たちは手早く、上手に料理をします。そのひみつは台所のかまど。なべをかける口が３つある便利なかまどは、日本人の岸田さんが考えて、広めたものです。今では村人たちは、よその村に出かけてかまど作りを教えています。

ゆかいなつやすみ

109　サンタのなつやすみ

レイモンド・ブリッグズ 作　さくまゆみこ 訳
あすなろ書房　978-4-7515-1458-0

なつやすみです。サンタはクリスマスまで仕事がありません。そこでりょこうにでかけることにしました。そりをキャンピングカーにかいぞうして、トナカイにひかせ、空をとんでいきます。まずはフランスへ。フランスりょうりをたべ、たいようをあびて、サンタはごきげんです。

110　おとうさんの玉手箱

富安陽子 文　土橋とし子 絵　ほるぷ出版
978-4-593-56502-3

ちいちゃんのおとうさんがこどものころ、学校中をアッといわせる夏休みの自由研究を考えていたら、友だちのタヌキが「玉手箱なんかどうです？」といいました。玉手箱といえば龍宮城でもらうもの。タヌキは、おとうさんが龍宮城へ行けるようにクラゲにれんらくしてくれました。

111　ゲーターガールズ ふたりはなかよし

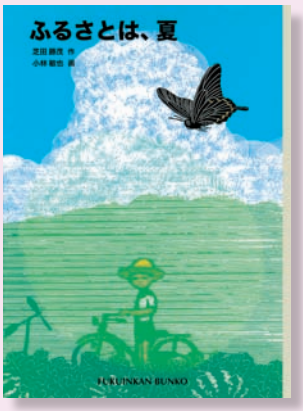
ジョアンナ・コール、ステファニー・カルメンソン 作
リン・マンシンガー 絵　吉上恭太 訳　小峰書店
978-4-338-13203-9

エイミーとアリーは なかよしのワニの女の子。きょうから夏休みです。ふたりは「夏休みにやること」を長いリストにしました。ところがアリーがこどもキャンプに行くことになり、ふたりははなればなれに。そこでふたりは、リストに書いたこと全部を一日でやってしまうことにします。

112　アリスティードの夏休み

R. ティバー 作　Q. ブレイク 画　八木田宜子 訳
あかね書房

アリスティードは、海辺で夏休みをすごしています。マットレスを海にうかべて、はらばいになり、魚をさがしていると、時のたつのもわすれてしまいます。ところが、しあわせな気分で、ついうとうとしてしまい、気がついたらまっくらな海にひとりぼっち！



113　ふるさとは、夏

芝田勝茂 著　小林敏也 画　福音館書店
978-4-8340-1973-5

夏休み、みち夫は初めて父のいなかに行きました。みち夫の前には、村に古くから住む神さまたちが次々と現れます。氏神（うじがみ）のイツオ彦、分家（ぶんけ）の神様ブンガブンガキャー、ブタ猫ジンミョーとイタチのハンザ…。みんな、みち夫のことをよく知っているようです。

ちしきのほん

114　かっぱ印 川あそびブック

阿部夏丸 絵・文　ブロンズ新社
978-4-89309-286-1

かっぱ印の川あそびは、川のいろいろな生きものとなかよくなることだ。ナマズやメダカをつかまえて、かんさつする。石のすきまにいるウナギを竹ざおでつって、うなどんを作ってみる。ヤゴがトンボにへんしんする場面は、何度見てもびっくりする。さあ、川に行ってかっぱになろう。

おんがく

115　ふしぎなバイオリン

クェンティン・ブレイク 文・絵
たにかわしゅんたろう 訳　岩波書店
978-4-00-115126-8

パトリックは、ふるどうぐやでバイオリンをかいました。ほこりをふきとばして、いけのほとりでひきはじめると、魚がいけをとびだして、空をとびまわり、うたをうたいました。おんがくにあわせて、みんなであるいていくと、まるでおまつりのぎょうれつのようです。

116　バラライカねずみのトラブロフ

ジョン・バーニンガム 作　せたていじ 訳
童話館出版　978-4-924938-94-6

ネズミのトラブロフは、さかばにすんでいました。さかばでは、がくしたちが、まいばんバラライカをえんそうします。おんがくのすきなトラブロフは、いつもききほれていました。ある日、だいくネズミのじいさんが、「バラライカをつくってやろう」といいました。

117　歌うねずみウルフ

ディック・キング＝スミス 作　杉田比呂美 絵　三原泉 訳
偕成社　978-4-03-501050-0

ひとりぐらしのおばあさん、ハニービーさんは、まい日ピアノをひいています。この家にすんでいる子ネズミのウルフは、ピアノをきいているうちに、ネズミでも歌えるかしらとおもって、歌ってみました。すると、小さいけれど小鳥のようなきれいな声で歌えたのです。

118　セロひきのゴーシュ

宮沢賢治 作　茂田井武 画　福音館書店
978-4-8340-0056-6

ゴーシュは金星音楽団でセロをひいています。楽長には、いつもへただとどなられています。ゴーシュが家に帰って何べんも練習していると、夜中にネコがやってきて、トロメライをひいてくれと言いました。ゴーシュは、嵐のような勢いで「インドのとらがり」をひきはじめました。

119　天才コオロギ ニューヨークへ

ジョージ・セルデン 作　ガース・ウイリアムズ 絵
吉田新一 訳　あすなろ書房　978-4-7515-1897-7

いなかから出てきたコオロギのチェスターは、地下鉄の売店に住み始めます。チェスターは、自分で作曲した曲やラジオから流れる音楽をおぼえて、友だちのネコやネズミに聞かせました。やがて、駅の売店には、コオロギの美しい音楽を聞きに、たくさんの人が集まるようになります。

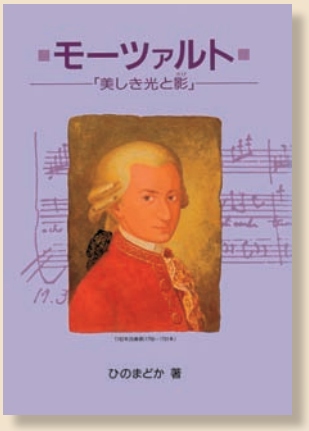
おんがく

ちしきのほん

120　モーツァルト 美しき光と影

ひのまどか 著　リブリオ出版
978-4-89784-168-7

モーツァルトは、こどもの時から、作曲家のお父さんとヨーロッパ各地で演奏会を開きました。初めて見る楽譜をみごとに演奏し、作曲にも才能を見せるモーツァルトに人々は夢中になりました。14歳でオペラを作り、初日から劇場は満員、作曲家として一歩を踏み出します。



ゆ　き

121　はたらきものの じょせつしゃけいてぃー

ばーじにあ・りー・ばーとん 文・絵
いしいももこ 訳　福音館書店
978-4-8340-0509-7

じぇおぽりすの町に大ゆきがふって、なにもかもうごけなくなってしまいました。でもじょせつしゃのけいてぃーだけはうごいていました。けいてぃーは、けいさつしょのまえのゆきをかきのけ、ゆうびんきょくからえきまでのみちをきれいにし、少しもやすまず、せっせとはたらきます。

122　ゆうかんなアイリーン

ウィリアム・スタイグ 作　おがわえつこ 訳
セーラー出版　978-4-915632-32-7

アイリーンは びょうきのおかあさんのかわりに、おやしきのおくさまにドレスをとどけることになりました。外はゆきがふり、かぜがつよくふいています。アイリーンは「まけるもんか」とすすみます。するとかぜでドレスがまいあがり、あっというまにゆきの中にきえてしまいました。

123　大雪

ゼリーナ・ヘンツ 文　アロワ・カリジェ 絵
生野幸吉 訳　岩波書店
978-4-00-110552-0

あしたはこどものそり大会。きれいにかざったそりをみんなで走らせ、ごちそうを食べます。にいさんに言われて、フルリーナは、雪の中、そりにかざる色とりどりの毛糸のふさをもらいに、となり村までででかけました。ところが、帰り道、雪がひどくなって、風がさあっとふきました。

124　かくまきの歌

杉みき子 作　村山陽 画　童心社
978-4-494-02640-1

雪国の女の人は、毛布のようなかくまきをすっぽりかぶって歩きます。ちゃ子は、雪の降る夕方、夜勤をしているにいさんにお弁当を届けることになり、かあさんのかくまきを借りました。鏡を見ると、みのをかぶったこけしのような自分が写っていたので、くっくと笑ってしまいました。

125　長い冬

ローラ・インガルス・ワイルダー 作　谷口由美子 訳
岩波書店　978-4-00-114515-1

幾日も吹雪が続き、汽車は止まってしまいました。ローラの家では、石炭がなくなり、干草を燃やすことにしました。とうさんとローラが、干草をかたくよじって棒にするのです。 吹雪が吹き荒れても、一家は暗い台所で、声をあわせて歌いました。「われらはみんな、ここにいる」と。

ちしきのほん

126　やまとゆきはら
白瀬南極探検隊

関屋敏隆 作　福音館書店
978-4-8340-1887-5

1910年、白瀬南極探検隊は東京を出発し、１年がかりで南極に到達しました。いよいよ５人の突進隊が犬ぞりで南極点を目指します。隊員たちは、雪の中で野宿をし、犬も人も凍傷にかかりました。吹雪が吹き荒れ、ついに白瀬隊長は引き返す決心をし、その地を大和雪原と命名します。

おもちゃ

127　2ひきのわるいねずみのおはなし

ビアトリクス・ポター 作・絵　いしいももこ 訳
福音館書店　978-4-8340-1861-5

トム・サムとハンカ・マンカは、ねずみのふうふ。2ひきは、にんぎょうの家にハムやさかなやプディングが、たくさんあるのを見つけました。さっそく、たべようとしましたが、ごちそうはぜんぶにせものでした。2ひきはおこって、にんぎょうの家をめちゃくちゃにしてしまいました。

128　びゅんびゅんごまがまわったら

宮川ひろ 作　林明子 絵　童心社
978-4-494-00603-8

こうすけたちは、こうちょう先生にたのみたいことがありました。すると先生は、ひきだしから、びゅんびゅんごまを出して、音をたててまわしはじめました。そしてみんながまわせるようになったら、たのみを聞こうといいます。こどもたちはれんしゅうをはじめます。

129　くまのテディ・ロビンソン

ジョーン・G. ロビンソン 作・絵
坪井郁美 訳　福音館書店

テディ・ロビンソンは、デボラのお気に入りのぬいぐるみでした。ある日、にわでデボラとあそんでいると、げんかんにだれかがやってきました。デボラは家の中にかけこんで、それきりむかえにきてくれません。テディ・ロビンソンは、ひとばん外でねて、星のうたをききました。

130　ビロードうさぎ

マージェリィ・ウィリアムズ 文
ウィリアム・ニコルソン 絵　いしいももこ 訳
童話館出版　978-4-88750-036-5

ビロードでできたふわふわのウサギは、いつもぼうやといっしょにあそびました。古くなってみすぼらしくなりましたが、ぼうやにとっては、美しいウサギのままでした。ある日ぼうやがびょうきになりました。ウサギはかけぶとんの下にかくれて、ぼうやのそばをはなれませんでした。

131　だれも欲しがらなかったテディベア

ジャネット・アルバーグ、アラン・アルバーグ 作
井辻朱美 訳　講談社

ぬいぐるみのクマは、工場できびしい検査を受けます。きのう作られたクマくんは、自分のことをりっぱなクマだと思っていました。ところが、検査で不合格になってしまいました。目がちょっとゆがんで取りつけられていたからです。そんなことでへこたれるクマくんではありません。

ちしきのほん

132　いっしょにあそぼう
アフリカの子どものあそび

イフェオマ・オニェフル 作・写真
さくまゆみこ 訳　偕成社
978-4-03-328550-4

アフリカのこどもたちはどんなおもちゃであそんでいるか、しっていますか？　ビンのふたをたくさんあつめてあてっこをする「イトゥ・オクウェ」、たねととくべつのいれものを使ったゲーム「ンチョ」。コマ、あやとりなど、にほんのこどもとおなじおもちゃもあります。

おかし

133　おまたせクッキー

ハッチンス 作　乾侑美子 訳　偕成社
978-4-03-202400-5

ビクトリアとサムのおかあさんが、クッキーをやきました。「６つずつだね」ふたりはかぞえていました。そこに、ピンポーン。げんかんのベルがなって、トムとハナがやってきました。「３つずつだ」みんなが食べようとすると、またベルがなって、だれかがやってきました。

134　はしれ！ショウガパンうさぎ

ランダル・ジャレル 作　長田弘 訳　岩波書店

おかあさんが、こどもにショウガパンうさぎを作ろうと思いつきました。生地を大きなウサギの形に切ります。目はほしぶどう、口はサクランボ、はなはアーモンド。ほんものそっくりです。ところが、オーブンに入れようとすると、ショウガパンうさぎは、「いやだ」とさけんでにげだしました。

135　チョコレート戦争

大石真 作　北田卓史 絵　理論社
978-4-652-00502-6

お菓子屋の金泉堂のショーウィンドーには、１メートルもあるチョコレートでできたお城があります。クリームのまど、ウエハースの屋根。明と光一が、食べたいなとためいきをついていると、とつぜんショーウィンドーのガラスがわれました。２人ははんにんにされてしまいます。

136　魔法使いのチョコレート・ケーキ
マーガレット・マーヒーお話集

マーガレット・マーヒー 作　シャーリー・ヒューズ 画
石井桃子 訳　福音館書店　978-4-8340-0981-1

あるところに魔法使いがいました。魔法はへたでも、お料理のうでまえはたいしたものでした。すばらしいチョコレート・ケーキを作って、町じゅうのこどもを招待しましたが、待っても待っても、だれもきません。がっかりした魔法使いは、リンゴの木を相手にケーキを食べました。

137　ゆかいなホーマーくん

ロバート・マックロスキー 作　石井桃子 訳　岩波書店
978-4-00-114017-0

ホーマーくんは、おじさんに頼まれて、ドーナツ製造機に材料を入れました。機械から次々ドーナツが転がり出ます。ホーマーくんがストップのボタンを押しても止まりません。ドーナッツはどんどんできあがり、たなも椅子もカウンターもドーナツの山。それでも機械は止まりません。

おかし

ちしきのほん

138　和菓子のほん

中山圭子 文　阿部真由美 絵　福音館書店
978-4-8340-2304-6

春の舞い、波音、秋びより、雪の輪。これは和菓子の名前です。春夏秋冬、その時期にしか作られない和菓子には、季節の色や香りがこめられています。春ははなやかな、夏は涼しげな和菓子は美しくおいしいだけでなく、そこには日本の伝統的なデザインや色も生かされています。

本

139　ステラの えほんさがし

リサ・キャンベル・エルンスト 作　藤原宏之 訳
童心社　978-4-494-00739-4

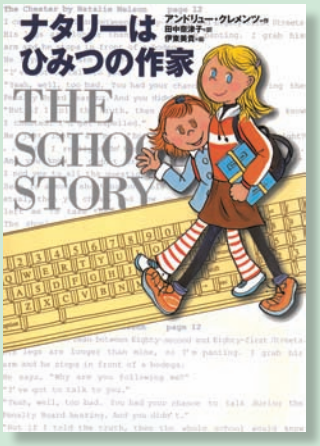
ステラがとしょかんからかりた本がみつかりません。おとうとは、ゆうびんうけにおいたといいます。でもそこにはありません。ゆうびんやさんが、となりの家にもっていってしまったのです。となりのティファニは、おとしものだとおもって、けいさつかんにわたしてしまいました。

140　がちょうのペチューニア

ロジャー・デュボワザン 作　まつおかきょうこ 訳
冨山房　978-4-572-00365-2

ある朝、ペチューニアは本をひろいました。「本をもち、これにしたしむものは、かしこくなる」ときいたペチューニアは、いつも本をもつことにしました。かしこそうに見えるので、みんながそうだんにきます。ペチューニアはとくいになって、くびがどんどん、どんどんのびました。

141　ナタリーは ひみつの作家

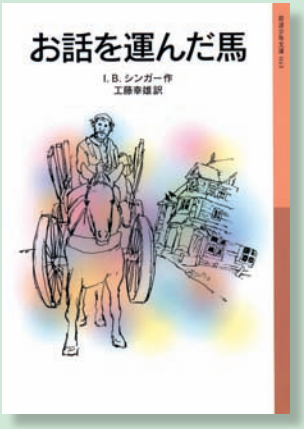


アンドリュー・クレメンツ 作　伊東美貴 絵
田中奈津子 訳　講談社

物語を書いたナタリーとその物語をすばらしいと思った親友のゾーイは、自分たちで本を出版したいと思いました。でもふたりは小学生。どうやったらできるでしょう。ナタリーは、カサンドラ・デイというペンネーム、ゾーイはジージーという別の名前を使って、出版にむけて作戦開始。

142　お話を運んだ馬

I. B. シンガー 作　工藤幸雄 訳　岩波書店
978-4-00-114043-9



ナフタリは、父さんや母さんからお話を聞いたり、本を読んだりするのが大好きなこどもでした。ナフタリには将来の夢が２つありました。１つは、馬といっしょに町や村を旅してまわり、お話の本を売ること。そしてもう１つは、自分がお話を書く人になることでした。

143　はてしない物語

ミヒャエル・エンデ 作　上田真而子、佐藤真理子 訳
岩波書店　978-4-00-110981-8

バスチアンが飛び込んだ古本屋は、四方のかべにも床にも本がぎっしりつまっていました。バスチアンは、ふと１冊のあかがね色の本に吸い寄せられました。手にとると題名は「はてしない物語」。そのとたん、この本がどうしても読みたくて読みたくてたまらなくなりました。

ちしきのほん

144　本はこうしてつくられる

アリキ 作・絵　松岡享子 訳
日本エディタースクール出版部
978-4-88888-176-0

今あなたが読んでいる本は、だれが作ったか知っていますか？　本を作るのは、文章や絵を書く人だけではありません。本のデザインをする人、文字の間違いがないか調べる人、印刷する人、製本する人、本の宣伝をする人などたくさんの人が協力して、１さつの本ができあがるのです。

そのほかの本

ともだち

きみなんかだいきらいさ　ユードリー作　センダック絵　こだまともこ訳　冨山房　978-4-572-00208-2

こんにちは、バネッサ　シャーマット作　ホーバン絵　小杉佐恵子訳　岩崎書店　978-4-265-91622-1

チームふたり　吉野万理子作　学習研究社　978-4-05-202895-3

点子ちゃんとアントン　ケストナー作　池田香代子訳　岩波書店　978-4-00-114060-6

ビーバー族のしるし　スピア著　こだまともこ訳　あすなろ書房　978-4-7515-2211-0

きょうだい

ピーターのいす　キーツ文・絵　木島始訳　偕成社　978-4-03-328060-8

ティッチ　ハッチンス文・絵　石井桃子訳　福音館書店　978-4-8340-0449-6

きかんぼのちいちゃいいいもうと1　エドワーズ著　渡辺茂男訳　福音館書店　978-4-8340-2154-7

ふくろ小路一番地　ガーネット作　石井桃子訳　岩波書店　978-4-00-114159-7

若草物語　オールコット作　矢川澄子訳　福音館書店　978-4-8340-0160-0

おとうさん

おやすみアルフォンス！　ベリィストロム作　山内清子訳　偕成社　978-4-03-207110-8

ピッツァぼうや　スタイグ作　木坂涼訳　セーラー出版　978-4-88330-136-2

あたまにつまった石ころが　ハースト文　スティーブンソン絵　千葉茂樹訳　光村教育図書　978-4-89572-630-6

お父さんのラッパばなし　瀬田貞二作　福音館書店　978-4-8340-2458-6

ぼくらは世界一の名コンビ！　ダール作　小野章訳　評論社　978-4-566-01053-6

まじょ

まじょまつりにいこう　せなけいこ作・絵　ポプラ社　978-4-591-09896-7

ハロウィーンのまじょティリー　フリーマン作　なかがわちひろ訳　BL出版　978-4-7764-0318-0

魔女学校の一年生　マーフィ作・絵　松川真弓訳　評論社　978-4-566-01354-4

魔女になんかなりたくない！　デプルシャン作　末松氷海子訳　文研出版　978-4-580-81297-0

魔女がいっぱい　ダール著　清水達也他訳　評論社　978-4-566-01422-0

おいしゃさん

むかでのいしゃむかえ　飯野和好作　福音館書店　978-4-8340-1554-6

ぼくびょうきじゃないよ　角野栄子作　垂石眞子絵　福音館書店　978-4-8340-1241-5

ねずみのおいしゃさま　中川正文文　山脇百合子絵　福音館書店　978-4-8340-0513-4

オバケだって、カゼをひく！　冨安陽子作　ポプラ社　978-4-591-09029-9

アリスの見習い物語 クシュマン著　柳井薫訳　あすなろ書房
978-4-7515-1798-7

ごきげんなおんなのこ

せかいいち大きな女の子のものがたり アイザックス文　ゼリンスキー絵　落合恵子訳
冨山房　978-4-572-00357-7

ジュディ・モードはごきげんななめ マクドナルド作　宮坂宏美訳　小峰書店
978-4-338-20301-2

そばかすイェシ プレスラー作　齊藤尚子訳　徳間書店　978-4-19-861609-0

どうなっちゃってるの!? クレメンタイン パッカー作　前沢明枝訳　ほるぷ出版
978-4-593-53451-7

ハンサム・ガール 佐藤多佳子作　理論社　978-4-652-00480-7

ちいさいひと

いちごばたけのちいさなおばあさん わたりむつこ作　中谷千代子絵　福音館書店
978-4-8340-0963-7

おもちゃ屋へいったトムテ ベスコフ作　菱木晃子訳　福音館書店
978-4-8340-1569-0

おやゆびひめ アンデルセン作　オット一絵　乾侑美子訳　童話館出版
978-4-924938-55-7

だれも知らない小さな国 佐藤さとる著　講談社　978-4-06-119075-7

トビー・ロルネス1 フォンベル作　伏見操訳　岩崎書店　978-4-265-04091-9

なまけもの

ジェイミー・オルークとおばけイモ デ・パオラ再話・絵　福本友美子訳　光村教育図書
978-4-89572-660-3

三ねんねたろう 大川悦生文　渡辺三郎絵　ポプラ社　978-4-591-00381-7

あわ一つぶでよめをもらったわかもの イ・ミエ著　イ・スヨン絵　かみやにじ訳　少年写真新聞社　978-4-87981-215-5

ぞうのホートンたまごをかえす ドクター・スース作・絵　しらきしげる訳　偕成社
978-4-03-348050-3

四人のなまけ者 『赤鬼エティン』から　東京子ども図書館編　東京子ども図書館
978-4-88569-057-0

どろぼう

すてきな三にんぐみ アンゲラー作　今江祥智訳　偕成社　978-4-03-327020-3

かさどろぼう ウェッタシンハ作　猪熊葉子訳　徳間書店　978-4-19-862337-1

チンパンジーとさかなどろぼう キラカ作　若林ひとみ訳　岩波書店
978-4-00-110873-6

花のき村と盗人たち 新美南吉著　大日本図書　978-4-477-17120-3

怪盗ルパン ルブラン作　榊原晃三訳　岩波書店　978-4-00-114525-0

めいたんてい

きえた犬のえ シャーマット文　光吉夏弥訳　大日本図書　978-4-477-16211-9

お江戸の百太郎 那須正幹作　岩崎書店　978-4-265-92822-4

シャーロック・ホウムズまだらのひも ドイル作　林克己訳　岩波書店
978-4-00-114521-2

ポータブル・ゴースト マーヒー作　幾島幸子訳　岩波書店　978-4-00-115581-5

この湖にボート禁止 トリーズ作　多賀京子訳　福音館書店　978-4-8340-2135-6

おうさま

つぐみのひげの王さま グリム原作　センダック絵　矢川澄子訳　評論社
978-4-566-00150-3

いまはむかしさかえるかえるのものがたり 松岡享子作　馬場のぼる絵　こぐま社
978-4-7721-0087-8

王さまの竹うま ドクター・スース作・絵　渡辺茂男訳　偕成社　978-4-03-348080-0

ムギと王さま ファージョン作　石井桃子訳　岩波書店　978-4-00-114082-8

漂泊の王の伝説 ガルシア作　松下直弘訳　偕成社　978-4-03-540480-4

おひめさま

おひめさまのたんじょうび ローベル作　猪熊葉子訳　文化出版局　978-4-579-40102-4

毛皮ひめ ハック文　ローベル絵　松井るり子訳　セーラー出版　978-4-915632-64-8

みにくいおひめさま マッギンリー作　まさきるりこ訳　瑞雲舎　978-4-916016-84-3

りん姫あやかし草紙 澤田徳子作　教育画劇　978-4-7746-1076-4

美しいハンナ姫 ケンジョジーナ作　足達和子訳　岩波書店　978-4-00-114153-5

ごちそう

ゼラルダと人喰い鬼 ウンゲラー文・絵　たむらりゅういち、あそうくみ訳　評論社
978-4-566-00111-4

きつねのホイティ ウェッタシンハ作　松岡享子訳　福音館書店　978-4-8340-0198-3

ぼくのぱんわたしのぱん 神沢利子文　林明子絵　福音館書店　978-4-8340-0849-4

チキンサンデー ポラッコ作　福本友美子訳　アスラン書房　978-4-900656-20-8

メネッティさんのスパゲッティ レイブラント作　野坂悦子訳　BL 出版
978-4-7764-0085-1

てがみ

ぐりとぐらのかいすいよく 中川李枝子文　山脇百合子絵　福音館書店
978-4-8340-0528-8

よかったねネッドくん シャーリップ作　八木田宜子訳　偕成社
978-4-03-201430-3

ふしぎな木の実の料理法 岡田淳作・絵　理論社　978-4-652-00611-5

ひげねずみくんへ ナグダ作　高畠リサ訳　福音館書店　978-4-8340-0636-0

タチ オールドリッジ作　中村妙子訳　評論社　978-4-566-01146-5

としょかん

しずかに！ここはどうぶつのとしょかんです フリーマン作　中川千尋訳　BL 出版
978-4-7764-0286-2

バスラの図書館員 ウィンター絵・文　長田弘訳　晶文社　978-4-7949-2042-3

エリザベスは本の虫 スチュワート文　スモール絵　福本友美子訳　アスラン書房
978-4-900656-35-2

すえっ子のルーファス エスティス作　渡辺茂男訳　岩波書店
978-4-00-114117-7

ぼくだけの山の家 ジョージ作　茅野美ど里訳　偕成社　978-4-03-726740-7

なぞなぞ

ミラクルバナナ キャストラ、エロワ作　フルラン絵　加古里子文　学習研究社
978-4-05-201416-1

りこうなおきさき ガスター文　光吉夏弥訳　岩波書店　978-4-00-110303-8

月からきたトウヤーヤ 肖甘牛作　君島久子訳　岩波書店
978-4-00-110377-9

チム・ラビットのぼうけん アトリー著　石井桃子訳　童心社
978-4-494-01104-9

二分間の冒険 岡田淳著　偕成社　978-4-03-635250-0

ガーデニング

ぼくの庭ができたよ ミューラー作　ささきたづこ訳　文化出版局
978-4-579-40285-4

おじいちゃんのはたけ ブベール作　冨山房編集部文　冨山房　978-4-572-00305-8

はたけうた 田島征三作　福音館書店　978-4-8340-2232-2

みしのたくかにと 松岡享子作　こぐま社　978-4-7721-0149-3

グリーンフィンガー メイ作　横山和江訳　さ・え・ら書房
978-4-378-01479-1

おくりもの

ブルーベリーもりでのプッテのぼうけん ベスコフ文・絵　おのでらゆりこ訳　福音館書店　978-4-8340-0545-5

おおきいツリーちいさいツリー バリー作　光吉夏弥訳　大日本図書
978-4-477-01141-7

くつなおしの店 アトリー作　松野正子訳　福音館書店　978-4-8340-1680-2

シャーロットのおくりもの ホワイト作　さくまゆみこ訳　あすなろ書房
978-4-7515-1889-2

ワニてんやわんや イェップ作　ないとうふみこ訳　徳間書店
978-4-19-861803-2

ゆかいななつやすみ

うみべのハリー ジオン文　グレアム絵　渡辺茂男訳　福音館書店
978-4-8340-0098-6

うみのべっそう 竹下文子作　佼成出版社　978-4-333-01982-3

キツネ山の夏休み 富安陽子作・絵　あかね書房　978-4-251-06164-5

ウエズレーの国 フライシュマン文　ホークス絵　千葉茂樹訳　あすなろ書房
978-4-7515-1975-2

霧のむこうのふしぎな町 柏葉幸子著　講談社　978-4-06-283206-9

おんがく

ねこのくにのおきゃくさま ウェッタシンハ作　まつおかきょうこ訳　福音館書店
978-4-8340-1364-1

ドレミファ・ドーナツふきならせ　森山京文　フレーベル館　978-4-577-02462-1

オーケストラの 105 人　カスキン文　サイモント絵　岩谷時子訳　すえもりブックス
978-4-915777-15-8

ハーモニカのめいじんレンティル　マックロスキー文・絵　まさきるりこ訳　国土社
978-4-337-06237-5

父さんと歌いたい　パターソン著　岡本浜江訳　偕成社　978-4-03-726340-9

ゆ　き

ゆきむすめ　内田莉莎子再話　佐藤忠良絵　福音館書店　978-4-8340-0093-1

ゆきとトナカイのうた　ハグブリンク作・絵　山内清子訳　ポプラ社
978-4-591-07020-8

雪の写真家ベントレー　マーティン文　アゼアリアン絵　千葉茂樹訳　BL 出版
978-4-89238-752-4

雪の女王　アンデルセン著　大塚勇三編訳　福音館書店　978-4-8340-1088-6

オオカミに冬なし　リュートゲン作　中野重治訳　岩波書店　978-4-00-110818-7

おもちゃ

そらをとんだけいこのあやとり　やまわきゆりこ作・絵　福音館書店
978-4-8340-0322-2

ちいさな天使と兵隊さん　コリントン作・絵　すえもりブックス　978-4-915777-02-8

木馬のぼうけん旅行　ウィリアムズ作　石井桃子訳　福音館書店
978-4-8340-1910-0

ミス・ヒッコリーと森のなかまたち　ベイリー作　坪井郁美訳　福音館書店
978-4-8340-2074-8

スズの兵隊　アンデルセン作　ブラウン絵　光吉夏弥訳　岩波書店
978-4-00-110626-8

おかし

おだんごぱん　瀬田貞二訳　脇田和絵　福音館書店　978-4-8340-0057-3

こぶたくん　バン・ルーワン作　ローベル絵　三木卓訳　童話館出版
978-4-924938-52-6

ジオジオのたんじょうび　岸田衿子作　あかね書房　978-4-251-00650-9

さとうねずみのケーキ　ジオン文　グレアム絵　わたなべしげお訳　アリス館
978-4-7520-0319-9

チョコレート工場の秘密　ダール作　田村隆一訳　評論社　978-4-566-01051-2

本

ルラルさんのほんだな　いとうひろし作　ポプラ社　978-4-591-08798-5

かおるのたからもの　征矢清作　あかね書房　978-4-251-06379-3

きつねものがたり　ラダ作・絵　内田莉莎子訳　福音館書店　978-4-8340-0058-0

空へつづく神話　富安陽子作　偕成社　978-4-03-727080-3

ジェリコの夏　ハーウィッツ文　千葉茂樹訳　BL 出版　978-4-89238-599-5

さくいん（50音順）

読は読み聞かせに向く絵本　知は、知識の本です。

あ あかちゃんてね 読知 42
あさえとちいさいいもうと 読 7
遊んで遊んで 知 36
アリスティードの夏休み 112
アルフレッド王の戦い 65
アンディとらいおん 読 85
い 石ころがうまれた 知 60
いたずら小人プムックル 38
1ねんに365のたんじょう日プレゼントをもらったベンジャミンのおはなし 読 105
いっしょにあそぼう 読知 132
いっすんぼうし 読 37
う 歌うねずみウルフ 117
え エドウィナからの手紙 82
エーミールと探偵たち 57
エンザロ村のかまど 知 108
お オオカミ王ロボ 知 66
大きな森の小さな家 17
大どろぼうホッツェンプロッツ 51
大雪 読 123
おかえし 読 104
おさらをあらわなかったおじさん 読 43
おそうじをおぼえたがらないリスのゲルランゲ 46
おたよりください 81
おとうさんの玉手箱 110
お話を運んだ馬 142
お姫さまのアリの巣たんけん 知 72
おまたせクッキー 読 133
おんどりとぬすっと 読 49
か 海賊の大パーティ 88
かくまきの歌 124
がちょうのペチューニア 読 140
かっぱ印川あそびブック 知 114
かるいお姫さま 71
き きつねのとうさんごちそうとった 読 15
ギルガメシュ王ものがたり 64
く クッキーのおうさま 61
くまのコールテンくん 読 1
くまのテディ・ロビンソン 129
くものすおやぶんとりものちょう 読 56
黒ネコジェニーのおはなし1 4
黒ねこの王子カーボネル 23
くんちゃんのはたけしごと 読 97
け ゲーターガールズふたりはなかよし 111
こ 木かげの家の小人たち 41
こぎつねコンとこだぬきポン 読 3
こだぬき6ひき 13
小町算と布ぬすっと算 知 54
さ 山賊のむすめローニャ 52
サンタのなつやすみ 109
し しずくの首飾り 106
ジャイアント・ジャム・サンド 読 73
11ぴきのねことあほうどり 読 74
しんせつなともだち 読 103
す すえっこOちゃん 11
ステラのえほんさがし 読 139
すみれとあり 読知 6
せ せかい1おいしいスープ 読 76
セロひきのゴーシュ 118
そ 空とぶベッドと魔法のほうき 24
た 台所のマリアさま 107
大力ワーニャの冒険 48
タツノオトシゴ 読知 18
だれも欲しがらなかったテディベア 131
たんたのたんてい 55
ち 小さい魔女 21
小さな山神スズナ姫 68
ちかちゃんのはじめてだらけ 27
チョコレート戦争 135
て てがみはすてきなおくりもの 知 84
手で食べる？ 知 78
天才コオロギニューヨークへ 119
と とうさんおはなしして 14
どうぶつえんのおいしゃさん 読知 30
図書館 知 90

図書館員になった山賊たち 88
ドリトル先生航海記 29
どろぼうがっこう 読 50
どんぐりと山ねこ 80
トンボソのおひめさま 70
な 長い長いお医者さんの話 28
長い冬 125
長くつ下のピッピ 33
なぞとき名人のお姫さま 93
なぞなぞえほん 読 知 96
なぞなぞのすきな女の子 91
ナタリーはひみつの作家 141
なまくらトック 47
なまけものの王さまとかしこい王女のお話 69
に にいさんといもうと 読 8
2ひきのわるいねずみのおはなし 127
ね ねむりひめ 読 67
は 歯いしゃのチュー先生 読 25
はしれ！ショウガパンうさぎ 134
はだかの王さま 63
はたらきもののじょせつしゃけいてぃー 読 121
はちうえはぼくにまかせて 読 86
パディーの黄金のつぼ 39
はてしない物語 143
花咲か 100
花仙人 99
バラライカねずみのトラブロフ 読 116
ひ ビーザスといたずらラモーナ 9
ひとまねこざるびょういんへいく 読 26
火のくつと風のサンダル 16
秘密の花園 101
びゅんびゅんごまがまわったら 読 128
ビロードうさぎ 130
ふ ふしぎなバイオリン 読 115
ふたごのでんしゃ 87
ふたりはともだち 2
ふるさとは、夏 113
へ ペニーの日記読んじゃだめ 34
ヘンショーさんへの手紙 83
へんなどうつぶ 読 75
ほ ぼくは王さま 62
ぽっぺん先生の日曜日 94
ホビットの冒険 95
本はこうしてつくられる 知 144
ま まあちゃんのながいかみ 読 31
魔女の宅急便 22
マチルダはちいさな大天才 35
魔法使いのチョコレート・ケーキ 136
まほうつかいのノナばあさん 読 20
む 村は大きなパイつくり 77
め 名探偵カッレくん 58
も モーツァルト 知 120
ものぐさトミー 読 45
モモ 53
や やかまし村の子どもたち 5
やったね、ジュリアス君 89
やまとゆきはら 知 126
ゆ ゆうかんなアイリーン 読 122
ゆうびんやさんはだれ？ 79
ゆかいなホーマーくん 137
床下の小人たち 40
ら ライト兄弟 知 12
り りすのナトキンのおはなし 92
リディアのガーデニング 読 98
リネアの小さな庭 知 102
りんごのきにこぶたがなったら 読 44
ろ 六人の探偵たち 59
ロージーちゃんのひみつ 32
ロバートのふしぎなともだち 読 19
わ 和菓子のほん 知 138
わんぱくきょうだい大作戦 10

先生方や子供の読書に関わる方へ

このブックリストでは、都立多摩図書館が選んだ小学生が楽しめる本をテーマ別に紹介しています。

・小学生のための冊子です。子供たちがこのリストから読みたい本を探したり、本への興味を育てることができます。

・魔女やお菓子、おもちゃなど小学生が興味を持つテーマをそろえています。

・この小冊子は、様々な場で活用できます。

・この小冊子の中の本１冊1冊に、請求記号や棚番号などを記入し、図書室や学級などに置くと、子供が探しやすくなります。

・ブックトークや学習に対応した資料紹介に使えます。

・読み聞かせや朝の読書に本を選ぶときの参考になります。

・小冊子の中のテーマを使って本の展示をするなど、１箇所にまとめて本を並べると、子供の興味を引き出すことができます。

・是非ここに挙がっている本を購入して、図書室を充実させてください。

・テーマ別に紹介した６冊の中には購入できないものもありますが、「そのほかの本」はすべて、購入が可能です。（発行時点）

・現在購入可能な本には、ISBN（出版社名の後に付した978から始まる13桁の数字）を記載しました。

※「ほん・本・ごほん１」でも、いろいろなテーマで本を紹介しています。

読書活動に活用するために、この小冊子を希望する学校は、都立多摩図書館までご相談ください。

東京都立多摩図書館児童青少年資料係では、
子供の本や読書についての
ご質問、ご相談をお受けしております。

いつでも気軽にご利用ください。

東京都立多摩図書館
電話　042-524-6428（児童青少年資料係ダイヤルイン）
こどもページ　http://www.library.metro.tokyo.jp/c

東京都子供読書活動推進資料 2009
ほん・本・ごほん　2

平成 22 年（2010）3 月 1 日発行
編集　東京都立多摩図書館
発行　東京都立多摩図書館　〒 190-8543　立川市錦町 6-3-1
電　　話　042-524-6428
ファクシミリ　042-525-9168